

講座名	【必修】「生活現実を含む子ども理解とその発達支援の実践的・臨床的課題」		
開講日	平成30年7月31日（火）（予備日8月4日）		
時間数	6時間	講座の形態	講義
受講予定者数	40名		
取り扱う事項	客観的・具体的材料(各種報道・世論調査・統計等)の適切な利用)		
講座の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども理解と支援に関する教育の動向及び政策を理解できる ・教員としての子ども観、教育観について自己を振り返ることができる ・子どもの発達に関する脳科学、心理学等の最新の知見を理解できる ・生活習慣の変化を踏まえた生活指導・生徒指導とカウンセリングマインドを学ぶことができる 		
講座の概要	<p>子どもの発達の多様性に対応する教育および養護・支援の構成は、学級担任・養護教諭に共通の課題である。また、近年の社会的・文化的な環境変化は、子どもの身体症状や行動、仲間づくりに現れ、様々な問題事象が生じている。講義Ⅰでは、いじめ問題と子どもの関係性への理解と支援・指導の基本を考察し、講義Ⅱでは発達障害等の特別支援教育の科学的・臨床的知見を基に講述する。</p>		
講座の計画	1時限	講義Ⅰ：内外の教育動向及び学校教育のあり方といじめ問題	
	2時限		
	3時限	講義Ⅱ：特別支援教育の今日的課題	
	4時限		
		試験（30分程度）	
修了確認の方法	筆記試験の評価による		
成績評価の視点	講義内容を自分の実践的観点と論理でまとめているか		
備考	1時限は90分 テキストは使用しない。資料は適宜配布する。		
担当者	講義Ⅰ 折出 健二（看護学部教授） 講義Ⅱ 古井 景（愛知淑徳大学心理学部教授）		